

の ほ ほ ん



デザイン学部メディアデザインコース2年 木村 尚史

図 書 館 ニ ュ ー ス レ タ ー

創刊

図書館の歩き方

札幌市立大学附属図書館長 武邑 光裕

大学図書館 —「知の宝庫」から「知の発掘」へ—

札幌市立大学附属図書館アドバイザー 田中 道子

ユビキタス社会の電子ジャーナル いちユーザーの視点から

札幌市立大学看護学部 星 美和子

楽しみを失わないことが養生のもと ～貝原益軒著『養生訓』より～

札幌市立大学看護学部 加藤 登紀子

考える力

札幌市立大学デザイン学部 斉藤 雅也

本とフィールドワークの関係

札幌市立大学デザイン学部 上遠野 敏

カウンターの内側から・外側から

附属図書館貸出ランキング

図書館ニュースレター ロゴ&ネーミング紹介

図書館探訪「静かな出会いの空間」

イラスト：札幌市立高専 建築デザイン4年 佐藤 杏那

創刊号

2008年1月

札幌市立大学
附属図書館

SAPPORO CITY UNIVERSITY



<http://www.lib.scu.ac.jp/>

図書館の歩き方

筆者紹介
メディア美学、メディア環境学、
デジタルアーカイブ情報学、情報
文化学、創造産業論、コンテンツ
創造科学
著書：「記憶のゆくたてーデジ
タル・アーカイブの文化経済」東京
大学出版会 2003ほか



札幌市立大学附属図書館長
武邑 光裕

皆さんは、コンピュータの前でまず何をしますか?多くの人にとって、グーグルやヤフーの検索画面が、コンピュータと向かいあう最初の入り口かもしれません。

サーチエンジンと呼ぶ「検索」は非常に便利なものです。ただ、検索ですべての情報が入手できる訳ではありません。基本的なことですが、検索をするためには、まず検索する言葉を絞り、何を知らたいかを入力する必要があります。探す言葉に連なった情報は、瞬時に現れますが、それが本当に求めている情報であるのか、その先に情報を見極める力が必要とされます。膨大な情報を、自分の「知識」とするためには、先人の知識を参照する

など、自分の中での編集作業も必要です。

ネットの検索だけでなく、図書館で一日中、あらゆる本と出会う喜びは、学生時代の大きな特権です。これからの図書館は、24時間インターネットと繋がりながら、実体の書物との出会いにも新たな意味をもたらす場所となります。ネットの情報データと実体の図書とを結び、様々なサービスが生まれています。図書館には、皆さんの将来を創造する知識の鍵があります。身近すぎて気がつかない場所、そこをもっと自分のために利用して下さい。レポートの課題を処理するためではなく、自分だけの秘密の空間に図書館をしてしまうことを発見して下さい。

そうなればもう、自分だけの知識の世

界が開けてきます。1冊の本との出会いが、その後の人生を変えてしまうことすらあります。時間を作り、図書館をひとりで訪れて下さい。書架の前をゆっくりと歩き、どんな本と出会えるかを少し期待して、図書の背表紙を眺めて下さい。あてもなく散策するように。これが基本の図書館術といえるものです。探していない本、出会うことすら予測しなかった1冊の本との出会いが、あなたを待っています。

本を検索するだけでなく、知識の源泉たる膨大な図書が、皆さんに発見されることを待っている。そうした偶然の出会いにこそ、図書館を歩く醍醐味があるのです。

日本は戦後「図書館法」が制定されるまでは、図書館は市民の生活の身近なものではありませんでした。私が小学校の頃は、町には映画館はあっても図書館はありませんでした。学校の中に教室を開放した小さな図書室があり、借りるときはノートに記していく自主管理のものでした。放課後ここに通うことはひそかな楽しみであり、エジソン、ナイチンゲールなど伝記を中心に読んでいた記憶があります。

今日のように町や学校に図書館（全ての地域がそうとは限らないが）があるようになったのは、世界の図書館の長い歴史からするとほんの最近の話です。古代アレクサンドリア図書館から現代まで図書館が変遷してきた歴史を概観すると大変興味深いものがあります。

中世のヨーロッパにおいて図書館として重要な役割を果たしていたのが修道院

であり、そこには主に宗教書がおかれていました。12世紀頃には大学図書館が誕生し、一部の知識階級が学問・研究する場でありました。その当時、書物は写本であったため、大量に書物を作ることができませんでしたので、書物は貴重なもので鎖につながれていました。

15世紀の中頃、グーテンベルク（グーテンベルク革命と呼ばれている）が活版印刷技術を開発し、続いてヨーロッパに産業革命がおこったことで、書物が量的に生産可能になりました。また、交通手段の発達により流通も変化し、読みたい本があれば何時でも、誰でも手に入れること容易になりました。

人間が文字をもったときから書き印すことが可能になり、文字として記されたものを収集し、後世に伝えていくという使命を持って壮大な時間の中で脈々と繰り返しておこなわれているのが「図書館」

なのです。また、図書館の書物は体系的に分類・整理・保存されおり、故に図書館は「知の宝庫」と言われているのです。図書館の存在がなければ書物が散逸し、今日のような文化・芸術の開花や科学・技術の進歩はなかったのではないでしょう

か。しかし、紙の文化もIT革命が起こったことで図書館に大きな変革をもたらしました。紙媒体の書物から、CD・DVD等のデジタル資料やネットワークを介して利用する電子資料等を共存させてサービス提供するという使命が加わりました。本学図書館でも様々なジャンルの本や視聴覚資料、電子資料またそれらを検索するツール等を備えています。

「知の宝庫」から「知の発掘」なる楽しみを大学生活の中で見つけていただくことをお薦めします。

札幌市立大学附属図書館アドバイザー

田中 道子

大学図書館



筆者紹介
図書司書学 図書情報学
北海道大学学部図書館（室）および
附属図書館等で図書館司書として
利用者サービス、情報検索、レ
ファレンス業務等に従事。

—「知の宝庫」から「知の発掘」へ—

筆者紹介
看護管理学領域
研究概要：Vulnerableな対象におけるウェルビーイング、看護哲学、スピリチュアリティ、看護管理、リーダーシップ、バーンアウト



ユビキタス社会の電子ジャーナル いちユーザーの視点から

近年、ユビキタスという言葉が良く聴かれます。“いつでも、どこでも、誰でも”ネットワークにアクセスし、その恩恵を得ることのできる、そんなネットワーク社会の将来あるべき姿としてユビキタス情報社会の整備が叫ばれています。さて、ユビキタスという視点で図書館を考えたときに、真っ先に浮ぶのが“電子ジャーナル・データベースの普及”ではないでしょうか。

電子ジャーナルの普及により、利用者は実際に図書館へ行く必要がなくなっています。大学では、原則的には24時間いつでも、研究室やコンピュータ室から論文を探し、ダウンロードし、プリントして手に入れることができるようになりました。また、電子ジャーナルは契約によって、同時アクセス数（一度に使用できる人数）が複数であったり無制限であったりするので、従来の図書館のように、誰かがその雑誌を見ていたら自分はそれを見ることができないということも起こりにくいです。研究機関としての図書館を重視する欧米の大学では、多額の予算配分を行うことで、電子ジャーナルの遠距離アクセスをも可能にしています。これは、自宅にしながら電子ジャーナルを利用して文献を手に入れることができるシステムです。そのため、電子媒体になっていない文献を手に入れるとき

ぐらいしか、図書館に足を運ぶ必要がなくなっています。残念ながら本学では、まだそのシステムを導入するまでには至っておりません。ただ、図書館というものが文献を収集・保存し閲覧できる場所から、“いつでも、どこでも、誰にでも”情報を提供する機関へと変わりつつあると言えます。

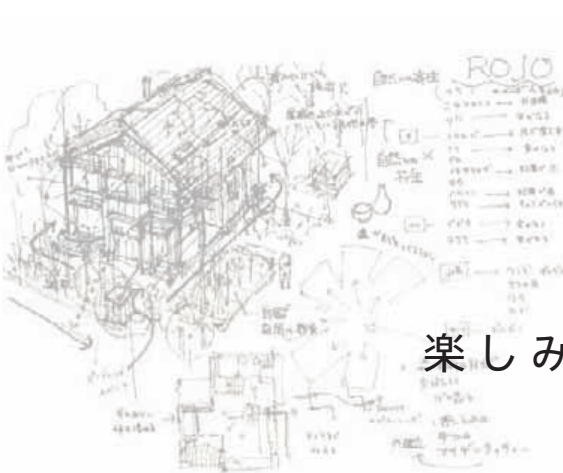
電子ジャーナルは研究という観点から見て非常に有益なツールといえます。電子化によって、研究に必要な文献検索が非常に容易になりました。検索語を入力すると、お目当ての文献や関連した文献を迅速かつ簡単に見つけることができます。クロスリファレンスの活用によって、引用文献リストから、引用されている文献をも容易に手に入れることができます。また、アラート設定によって、最新の文献についてメールで定期的に報告を受けダウンロードすることも可能です。米国では電子ジャーナルの普及によって、研究者が読む文献の量が飛躍的に増大し、研究の生産性が非常に向上したとも言われています。

ただし、この電子ジャーナルの恩恵を受けるためには、その機能を理解し使いこなす必要があります。便利な検索機能のおかげで、多数の雑誌を一度に検索することが可能ですが、検索語が適当でない場合や詳細検索を適切に行わない場合

に、数万単位で文献が見つかり重要論文を見逃すという事態も起こります。また、検索事項の全体像を見たい、書籍や雑誌一冊をざっと見たいというときには、電子ジャーナルは不向きかもしれません。Encyclopedia（百科事典）なんかは、ほとんどの欧米の大学図書館では電子媒体になっていて、お目当ての言葉を探すのは簡単なのですが、その前後の関連したコンテンツはいちいちクリックしないと見ることができないという難点があります。それに、HTML形式のみで提供される場合、プリントすると非常に多量のページになってしまうこともあります。以前、私がReligionという言葉電子のEncyclopediaで引いたときなど、このたった一つの言葉で20ページ以上ものプリントが必要なことがあり驚きました。

とは言え、利用者の生活を便利にするために生まれて来た電子ジャーナル。利点もたくさんありますから、学生の皆様や研究者の方々、研究者の端くれである私も、使いこなせるように日々学んでいくことが必要なのでしょう。図書館においても、研究関係は電子ジャーナル、読み物系は紙媒体へと使い分けていく必要があるかもしれませんね。

筆者紹介
地域看護学、産業看護、保健指導、健康教育、コミュニティヘルス、ヘルスプロモーション
研究概要：健康診断後の保健指導技術評価、働く女性のヘルスプロモーション、働くことの意味と価値



楽しみを失わないことが養生のもと ～貝原益軒著『養生訓』より～

学生の皆さんは「養生」（ようじょう）という言葉にはあまり馴染みがないと思うが、例えば今騒がれているメタボリックシンドロームを予防するには、まさに養生がキーワードである。ここでは、1713年、江戸時代の儒家・貝原益軒が80歳をこえてから著した日本の古典『養生訓』をとり上げてみたい。『養生訓』は単なる健康法を説いたハウトゥものではなく、真に人生を味わうために、また志を全うするために養生が必要だからという。天からの授かりものである「いのちへの畏敬」が養生の出発点であり「畏れ、慎む」ことが養生の立脚点である。そして最も魅力的と感じる点は『人生を楽しむ、そのための養生なのである』『楽しむのは人の生まれつきの生理（本性）である、楽しみを失わないことが養生のもとである』とのアイディアである。400年も以前に、なんと粹な、言い得て妙なセリフ!と思ってしまう。そして4つの楽しみを具体的にあげている。

- 1.「自然を楽しむ」：「月日のかがやき、風雨のうるほい、鳥獣の鳴き動き、草木のおひしげれる様に接し、心を感じしむることである。」
- 2.「読書を楽しむ」：「およその事、友を得ざればなしうべからず。只読書の一事は、友なくてひとり楽しむべし。一室にいて天下四海の内

を見、天地万物のことわりをしる。数千年の後にありて、数千年の前を見る。今の世にありて、いにしえの人に対す。わが身おろかにして聖賢にまじはる。これ皆読書の楽しみなり。これを好む人は天下の至福を得たりというべし。」

- 3.「旅を楽しむ」：「他郷に遊び、名勝の地、山水のうるはしき佳境にのぞめば、良心を感じおこし、鄙吝をあらいすすぐ助けとなれり。是も亦わが徳をすすめ、知をひろむるよすがなるべし。」
- 4.「人と共に楽しむ」：「我ひとりたのしみて人を苦しむるは、天のにくみ給ふ所おそるべし。人と共に楽しむは、天のよろこび給ふ理にして、誠の樂なり。」

人は生まれながらにして楽しく生きたいを思うようにつくられているという。また、読書を楽しめば天下の至福を得たり、とは皆さんも実感であろう。日頃、楽しみ足りない思いでいたが、楽しみはいくらでもつくれるし、楽しみをつくる楽しみも味わえる。そして楽しみを見つける意味でも、図書館には足しげく通いたいものです。

引用文献
立川昭二 養生訓に学ぶ PHP新書 2001
松田道雄 日本の名著 貝原益軒 中央公論社 1983



貝原益軒像
益軒は読書家である。これは益軒65歳の寿像で、収穫期に入ったもっとも充実した時代の姿で、85歳で生涯をおえるまで書を読み。名著にはげんだ勤勉な益軒がよく表現されている。京都の画家狩野呂運が黒田藩主にまねかれたときに描いたものという。

日本の名著 14 貝原益軒
中央公論社
貝原真古蔵 撮影 光安欽二



筆者紹介
建築環境学、住環境教育、熱力学。
地域にある自然のポテンシャルを
活かした建築環境システムのメ
カニズムを明らかにする研究を行
なっている。
本学クローバーホールの涼房プロ
ジェクト、円山動物園エコ改修プ
ロジェクト等にも関わる。
著書：[エクセルギーと環境の理
論―流れ・循環のデザインとは何
かー] (共著) 北斗出版 2004ほか

考える力

最近、新聞やテレビで話題になっている「考える力」の低下。その報道内容に拠ると、“今の生徒・学生の「考える力」が一昔前よりも落ちていて、それが国家全体としての「学力低下」にも繋がっている”といったことのようにだ。しかしながら、実態は本当にそうなのだろうか。その実態（？）を嘆いている教育関係者の発する言葉の一つ一つを注意深く聞いてみると、「最近の若い学生は、○○なことも知らない」「△△さえも理解できていないようだ」に代表される表現が少なくなく、彼らの「知識量不足」を嘆いている場合がほとんどであることに気付かされる。

筆者が教員になって早7年が過ぎようとしているが、筆者の体験も含めて全体を俯瞰してみると、結論から言えば「考える力」あるいは「創造力」のポテンシャルそのものは、今も昔もそう変わらず、単にそれらを引き出す仕事を教育現場が果たしていないのではないか・・・という大胆な仮説をもっている。というのも、筆者が子どもだったころから、中学・高校を経て大学、大学院、米国留学、そして今と自分の履歴を振り返って見たとき、学校、そして教育にかかわる国（文部科学省）や地方行政（教育委員会）が評価してきたことは、結果として、知識量の豊かさを問う教育、その成果を問う受験制度の構築だったのではないかと思う。自分が中学・高校ぐらいのときは

「○○は疑問に思わずに覚えなさい」という内容の授業も結構あったように記憶している。冒頭で述べた、いわゆる知識量不足が、“ゆとり教育”の影響で仮にあったとしても（筆者はそれも疑っているのだが・・・）、「考える力」そのものを引き出すような教育が積極的に展開されてこなかったのではないかと感じるのである。

ところで、「考える力は、豊かな知識量があることで発展する」という指摘もある。確かに筆者もそういうことが実際にないわけではないので否定はしない。しかしながら、知識の詰め込みだけをこれ以上していても、「考える力」を引き出す手掛かりは得られないように思う。たとえば、数学の教科書にはいわゆる公式や定理が出ているが、これらは、多くの先人の迷いの集積の結果として得られた美しい型・形である。おそらく最初に発見したヒトは、相当の感動もので、時代によっては常識を覆す反社会的な活動として発見者が弾圧される悲劇もあったぐらいなのだが、現代の私たちは彼らと同じような驚きや感動はなく、ひたすら覚えることに必死になっている。では、どうしたら良いか。若い学生諸君においては、いろいろなことに疑問をもって、積極的にその解明に手を尽くし、頭を使うことが大切のように思う。特に、大学生活において鍵になることは、客観的事実と言われる内容（先人の発見）をぐっと飲み込んで

覚えるのではなく、発見に至る壮大なるプロセス（感動）をできるだけ味わい、自らの日常体験とが重なること。いわゆる、腑に落ちる体験が重要と思う。効率よく知識だけを詰め込んで最短距離で前に進む方法は、結果としてその後、停滞ならまだしも、後ろへ大きく後退、「最長距離」を招くようにさえ思う。腑に落ちる体験がそれぞれに集積すれば、日本の学校教育が結果として軽んじてきた、芸術・デザイン教育の将来に対しても明るい刺激になるに違いない。

最後に、誤解を恐れずにいえば、30代半ばの自分の年代が教育現場の（年代的な）コアにいる今、自分たちがどのような教育を受けてきて、いまどのくらい自分自身も勉強をしているかが、今の学生に対しての研究・教育内容をどうするかといった議論と同じくらい重要なウェイトを占めているように思う。そう思うと、自分たちはさらに「考える力」を磨く、すなわち「腑に落ちる体験」を学生諸君に負けないぐらい積む必要が今でもあるように思う。大学は、教える側、教えられる側が共に切磋琢磨することによって、新しい世界の発見をし、共に感動し、その成果が社会貢献に繋がることだと思う。本誌創刊号のトピックスとして、相応しい内容だったかわからないが、筆者が一番気になっていることであるので、ぜひ読者の皆さんの考えと重ね合わせてみたい。

筆者紹介
現代美術制作、現代美術研究、日本
の美意識研究、アート計画（アート
ディレクター、アートコーディネーター）
作品：札幌駅南口モニュメント設置
2000、札幌市生涯学習総合セン
ター「時の地図-縄文から未来へ-」設置 2000



本とフィールドワークの関係

本は誠に楽しい。マーク・トウェインの「ハックルベリー・フィンの冒険」は齢五十を過ぎてても心を躍らせる。可能ならハックの耳あかにでもなって、一緒にミシシッピ川を筏で下ってみたい。本の背表紙から、すでに創造世界が広がっていて、背中を向けているが、いつでもWelcomeなのである。手に取る瞬間からそれが始まる。不思議なことに、文字情報から脳内に映像が映る。一本の映画を見ている、ようでもある。バーチャルな疑似体験と言えようか。人間の知性はそれでは満足出来なくて、行ってみよう。行ってみよう。行くぞ。となる。百万遍の話を聞いても、一見に勝るものはないのである。

昨春に京都に行った。京都、奈良には数十回訪ねているが、テーマはその都度違う。今回は京都の名庭、四十四ヶ所を周遊した。庭も美しいが、端正にそれを育てる心が美しいのだと思った。空間に身を置いて初めて分かることがある。

夏には青森と岩手に行った。以前、恐山や津軽取材したが見落としが多々あったので調べることににより他の関連も見えてくる。今回のテーマは、化粧地蔵とオシラサマ、冥婚、山神、供養絵。他に稲荷信仰、馬の神、山岳信仰、おがみさんの霊場など。京都が絢爛たる国家鎮護の光りなら、東北は冷害による飢饉などの闇があった。自分の身を護るための民間信仰が驚くほど多い

のである。それは小さな光であり真の民衆救済の姿でもある。

津軽・金木には太宰治の生家があり、近くに雲祥寺がある。太宰の小説「思い出」には、その寺の地獄絵の恐ろしさや後生車のいきさつが書かれている。十王図や地獄絵、九相図を併せた時間空間の多重な表現は怖さと戒めを超えて創造の歓喜があった。恵心僧都・源信の「往生要集」が元と言われる八大地獄の呵責の種類や地獄の多さに、増殖するイマジネーションの凄みを感じた。地蔵堂には、ほど良く着彩を施した化粧地蔵が三百体ほど安置され、色とりどりのよだれ掛けや、ずきん、ゆかたをまとして、愛らしいお顔が一層いとおしさを増していた。よだれ掛けの胸元をそっと開けると、挟まれていた小さなリングの切れ端がぼろりと落ちた。そこにはっとするほどの、あの世とこの世をつなぐ無償の愛を見た。お地蔵様は釈迦入滅後、五十六億七千万年後に弥勒菩薩が地球に救済に来てくれるまで、この世の救済を一手に引き受けるスーパースターなのである。だから民衆に近い僧形（そうぎょう）の姿をしている。それだけではなく人間の死後、六道（天・人・阿修羅・畜生・餓鬼・地獄）のどの世界に生まれ変わっても救済に来てくれるありがたい仏様なのである。たとえ地獄に落ちたとしても、遺族が追善供養をしてくれたり、生前に地蔵仏に手を合わせ

たりすると救済に来てくれる。近くの川倉賽の河原地蔵尊のお堂には二千体の化粧地蔵が鎮座している。近隣の稲垣には、村の辻々に小さなお堂があり、どれも色とりどりに着飾られた二千体の化粧地蔵が安置されている。そこには、あの世から口寄せをするイタコとそれを心待ちにする、この世の中高年の主婦との関係も見えてくる。他にオシラサマ、冥婚、供養絵などを見ると、東北の人たちの神々や仏や先祖に対する信心の篤さが分かる。そのどれもが鮮やかな色彩に溢れていた。それは生きることの困難さの裏返しなのであろうか。

書物の海に漂うだけでは観念の海に沈んでしまう。フィールドワークと合わせ鏡にすることで、より人間の智慧と営みに感謝することが出来るのではないだろうか。



津軽・金木 雲祥寺の化粧地蔵 （撮影：上遠野敏）

DESIGN

デザイン学部からのコメント

図書館司書は運動系

芸術の森キャンパス・ライブラリー司書
中川 むつ子

普段貸出に来て必要以上に私の愛想が良かったと感じた学生さんはいないでしょうか。そんな時は私が心の中でガッツポーズを決めているときです。約5万5千冊ある所蔵（芸術の森キャンパス）の中には私の選んだ本、所蔵していて嬉しい本がそれなりにあります。密かに埋もれている名著を持ってきた時は「なかなかやるな」と好敵手を得た気分になります。書評・マスコミでは取り上げられないけど“いい本”を利用してくれた時はカウンター越しにハイタッチをしたいくらいです。悩んで悩んで所蔵した本が貸出されたら、頭の中は逆転ゴールを決めたサッカー選手のようにピッチを走り回りバク転しています。貸出が多い日は感情の起伏も多く、一日を終えると1ラウンドコースを回ったゴルフ選手のようなです。もちろんすべてがナイスプレーとは限りません。本の内容が利用者の求めに合わなかったりすると、2アウト・ランナー満塁で三振したバッターの気持ちも味わうこともあります。

“静”のイメージの図書館司書ですがこんな司書がいてもいいのではと思っています。実際には行動で表していませんので、安心してカウンターに来てください。

本はすごいという話

デザイン学部メディアデザインコース2年
富田 香代子

私は夜寝る前と、土曜日に部屋を掃除したあとの3時ぐらいと、授業中に本を読むのが好きです。何故なら一番集中できるからです。授業中は本来なら先生の話の聞かなければいけないけれど、まあ、そうじゃない時もあります。活字はいわばキッカケで、そこから想像を広げていくのはなんと素晴らしく楽しいことか。本を読むことで想像する力が養われるというのは本当だと思います。本は映画と違って好きなときに中断できるのがいいところです。

図書館も好きです。本がたくさんあることもしかり、一番好きなのは老若男女がお互いを気にすることなく、礼儀正しく一列に座って本を読みふけていること。シュールです。どんなに騒がしい人でも本を読むときは黙ります。本はすごいです。

本というものは必ず誰かが書いていて、その誰かは全く知らない赤の他人。赤の他人の言葉に感動できるのは本ぐらいです。突然、道を歩いていて知らない人に呼び止められて、本の名言と同じこと言われても、変な人やなあ、と思って終わってしまう。本にはそれが無いです。紙の上の文字なら素直に言葉の意味を受け入れられる。本はすごいです。

ということで、本はいろいろなことを教えてくれるし、空想トリップにいざなってくれるし、本当に素敵な奴です。

これからもたくさん本を読みたいと思います。

NURSING

看護学部からのコメント

絵本読み聞かせ

子供たちの想像力を育む
ボランティア活動

看護学部2年
小西 美加

私がこの絵本読み聞かせボランティアをやろうと決めた理由は、単に「子供が好きだから」でした。絵本の読み聞かせをすれば子供と触れ合う機会が増えると思ったのです。しかし、絵本の読み聞かせは思っていたよりも大変なものでした。

絵本の選別から制作、練習と多くの時間を必要としました。1番大変であったことは絵本の選別と練習です。子供と大人の感覚の違いがあるため、どのような絵本が良いのか、子供たちはどんな反応を示すのか……いつも想像との戦いでした。

本番当日、私たちは子供たちの反応にとっても驚きました。「この絵本知ってる」という声や、「どうして光るの?」と不思議そうに近づいてくる子、皆でやってみようという誘いに「やだ!」と言いつつもやってくれた子もいました。予想以上の反応の良さに私たちがついていけず、反応に対して上手く返すことができなかったことがとても残念です。

今回の読み聞かせて学んだことは、子供の想像力の良さについてです。絵本で子供たちの想像力を育むことができるのだと実感できました。

今回は初めての読み聞かせでしたが、今後ともこの活動を続けていき、子供共々成長していきたいと思っています。



札幌市中央区桑園地区ボランティア活動
ブルーのエプロンの学生が筆者

館外貸出ランキング

NO.1

夜は短し歩けよ乙女
森見登美彦著

芸術の森・2F開架 / 913.6::Mor



©角川書店

NO.2
Gボーイズ冬戦争
池袋ウエストゲートパーク; 7
石田衣良著
芸術の森・2F開架 913.6/Ish/7

NO.3
ひとり日和
青山七恵著
芸術の森・2F開架 913.6/Aoy

NO.4
バッテリー [1] - 6
あさのあつこ著 (角川文庫)
芸術の森・1F文庫・新書 913.6/Asa/1-6

NO.5
夢を与える
綿矢りさ著
芸術の森・2F開架 913.6/Wat

NO.6
となり町戦争
三崎亜記著
芸術の森・2F開架 913.6/Mis

NO.7
ガールズ・ブルー
あさのあつこ著 (文春文庫)
芸術の森・1F文庫・新書 913.6/Asa

NO.8
強運の持ち主
瀬尾まいこ著
芸術の森・2F開架 913.6/Seo

NO.9
温室デイズ
瀬尾まいこ著
芸術の森・2F開架 913.6/Seo

NO.10
終末のフール
伊坂幸太郎著
芸術の森・2F開架 913.6/Isa

総 評

芸術の森では、文学がトップ10を占めました。あさのあつこさん、瀬尾まいこさんは根強いファンの方たちがいるようで2タイトルずつランクインです。今回1位となった、『夜は短し〜』は、僅差で2位を退けて山本周五郎賞受賞、本屋大賞2位の实力を見せてくれました。本の内容だけではなく、表紙のキュートなイラストが眼を引くブックデザインも見逃ごせません。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 和田 彩乃)

附 属 図 書 館 貸 出 ラ ン キ ン グ

貸出日:2007 / 04 / 01~2007 / 09 / 30 ('07上半期)

館外貸出ランキング

NO.1

呼吸器系疾患をもつ人への看護
奥宮暁子著 (ナーシングレクチャー)

桑園・開架 / 493.3::Oku



中央法規出版

NO.2
看護の基本となるもの
ヴァージニア・ヘンダーソン著
湯横ます, 小玉香津子訳...改訳著
桑園・開架 492.9/Hen

NO.3
人間対人間の看護
Joyce Travelbee [著];
長谷川浩, 藤枝知子訳
桑園・開架 492.901/Tra

NO.4
やさしい看護理論:
現場で活かせるベースの考え方
城ヶ端初子著.
(メディカ・マイブッソンシリーズ; 1)
桑園・開架 492.901/Jog

NO.5
心疾患をもつ人への看護
藤野彰子著.
(ナーシングレクチャー)
桑園・開架 493.23/Fuj

NO.6
対人関係に学ぶ看護:
トラベルビー看護論の展開
Mary Ellen Doona [著];
長谷川浩訳
桑園・開架 492.9/Don

NO.7
痴呆性高齢者ケアマニュアル:
より深い理解と正しく接するために
東京都老人医療センター編;
折茂肇監修; 平沢秀人編集
桑園・開架 493.758/Tok

NO.8
看護過程に沿った対症看護:
病態生理と看護のポイント
磯岩壽満子 [ほか] 編著...改訂版
桑園・開架 492.914/Iso

NO.9
超入門事例でまなぶ
看護理論
竹尾恵子監修
桑園・開架 492.901/Jir

NO.10
やさしく学ぶ看護理論:
ケースがあるから
わかりやすい
黒田裕子編著
桑園・開架 492.901/Kur

総 評

実習が多いため看護関連資料のみのトップテンです。カウンターでは小説や一般書も結構貸し出しているように感じのですが、トップテン入りはならず。ちなみに、看護以外の資料がランキングに登場するのは24位の「手紙 / 東野圭吾著 (桑園・新書文庫コーナー :913.6 / Hig)」と「涙そうそう / 吉田紀子, 吉田雄生 [著] (桑園・新書文庫コーナー :913.6 / Yos)」(桑園キャンパス・ライブラリー司書 渡辺 弥生)

館内貸出ランキング
(視聴覚)

NO.1

パイレーツ・オブ・カリビアン
デッドマンズ・チェスト

ゴア・ヴァービンスキー監督
テッド・エリオット, テリー・ロッシオ脚本

芸術の森・1FAV / 778::Pir::2



©Disney 発売元: ウォルト・ディズニー・スタジオ・ホーム・エンターテイメント
¥3,990/税込

NO.2
パイレーツ・オブ・カリビアン
呪われた海賊たち
ゴア・ヴァービンスキー監督
ジェリー・ブラッカイマー製作
芸術の森・1FAV 778/Pir

NO.4
Sayuri
ロブ・マーシャル監督; ロビン・スウィ
コード脚本; アーサー・ゴールデン原作
芸術の森・1FAV 778/Say

NO.5
レモニー・スニケットの
世にも不幸せな物語
ブラッド・シルバーリング製作・監督; レモニー・
スニケット原作; ロバート・ゴードン脚本
芸術の森・1FAV 778/Yon

NO.6
花とアリス
= hana & alice
岩井俊二監督・脚本・音楽
芸術の森・1FAV 778/Han

NO.7
ティム・バートンの
コープスブライド
ティム・バートン監督・製作
芸術の森・1FAV 778.77/Tim

NO.9
プロデューサーズ
スーザン・ストロマン監督・振付; トー
マス・ミーハン, メル・フルックス脚本
芸術の森・1FAV 778/Pro

NO.9
onedotzero
_select dvd
adventures in moving image; 2, 3.
芸術の森・1FAV 702.07/One/2-3

NO.10
オペラ座の怪人
ジョエル・シュマッカー監督; アン
ドリュウ・ロイド=ウェバー制作・
脚本・作曲; ガストン・ルルー原作
芸術の森・1FAV 778/Ope

総 評

昨春にシリーズ最新作の「ワールド・エンド」が公開された影響か、『パイレーツ・オブ・カリビアン』の1、2作目が同時にランクインです。注目は、9位の『onedotzero_select dvd』。イギリスで開催されたデジタル映像祭の祭典、「onedotzero」の展覧にノミネートされた作品を抜粋したDVDで、デザイン学部・高専がある芸術の森らしいトップ10入りです。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 和田 彩乃)

館内貸出ランキング
(視聴覚)

NO.1

ベッドサイドケアと
リスクマネジメント

ビデオ・バック・ニッポン制作著作
国立大学法人東京医科歯科大学摂食・嚥下友の会監修指導
(エビデンスに基づいた摂食・嚥下障害のケア; Vol.3 実践編)
桑園・AV / 493::Ebi::3



NO.2
摂食・嚥下と障害のメカニズム
ビデオ・バック・ニッポン制作著作
国立大学法人東京医科歯科大学摂食・嚥下
友の会監修指導 (エビデンスに基づいた摂
食・嚥下障害のケア; Vol.1 基礎編)
桑園・AV 493/Ebi/1

NO.2
摂食・嚥下障害の評価と
看護介入に必要な技術
ビデオ・バック・ニッポン制作著作
国立大学法人東京医科歯科大学摂食・嚥下友の会監修指導 (エ
ビデンスに基づいた摂食・嚥下障害のケア; Vol.2 技術編)
桑園・AV 493/Ebi/2

NO.4
アナムネーゼ聴取
[映像資料]
看護とコミュニケーション
桑園・AV 492.91/Ana

NO.5
ベッドメイキング
[映像資料]
ハートフル姉長の基礎看護
桑園・AV 492.91/Hat/1

NO.6
ベッドメイキング
[映像資料]
看護教育シリーズ
桑園・AV 492.9/Kan

NO.7
入院時の受け入れ
日本看護協会企画。(看護技術学習支
援ビデオシリーズ; 基礎看護学; 1)
桑園・AV 492.91/Kis/1

NO.8
総論, 問診・
視診のポイント
フィジカルアセスメント; 第1巻
桑園・AV 492.912/Fij/1

NO.9
胎児期・新生児期:
魅力に満ちたその世界
田島信元監修; 川上清文指導。(DVD Psychology
series; ビジュアル生涯発達心理学入門; 2)
桑園・AV 143/Bij

NO.10
触診・打診・
聴診のポイント
フィジカルアセスメント; 第2巻
桑園・AV 492.912/Fij/2

総 評

桑園の視聴覚資料は古いものが多いためか、あまり貸出が伸びませんでした。11月に先生たちの選定で新しいDVDが入りましたので、是非活用して下さい。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 渡辺 弥生)

図書館ニュースレター ロゴ&ネーミング紹介

全学から6名の学生の応募がありました。ここに全員の主なロゴ&ネーミングを紹介します。
応募頂いた皆様ありがとうございます。

選考結果

デザイン学部メディアデザインコース2年 木村 尚史
「のほほん」に決定しました。
のほほんとゆったりした気持ちになれるロゴマークです。
未永く愛される事を願っています。

の ほ ほ ほん

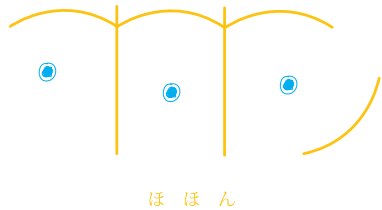
採用案

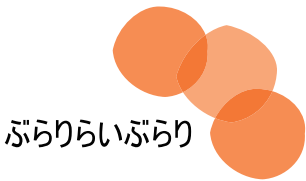


木村 尚史
Naofumi Kimura
デザイン学部メディアデザインコース2年

のんびりしていることを意味する「のほほん」という言葉に「ほん（本）」という言葉が入っていて面白いと思い、「のほほん（本）」というネーミングを考えました。本を読むようにゆったりと、楽しくニュースレターを読んでもらおうというコンセプトです。

ロゴはカタカナ版（ノホホン）とローマ字版（nohohon）を考えました。どちらも笑った顔と、開いた本をイメージしました。やわらかい曲線を多く使い、温かく親しみのわくデザインにしました。





ぶらりらいぶらり

門脇 瑞弓
Tamami Kadowaki
デザイン学部メディアデザインコース2年

親しみやすいネーミングとロゴをということでわかりやすくシンプルに作成。ネーミングは簡単に立ち寄ってほしいという思いをこめてつけた。
全てひらがなにすることで「ぶらり」をかけてみた。そのことにより、耳に残るような気になるネーミングになればいいと思った。カラーは、いつでも気軽に立ち寄れるようなあったかいイメージ。



目は読書になくてはならない感覚器官。その目をモチーフにロゴを作成。eyeをもじったロゴはふたつのeがマツゲのようにも見えるし毛のようにも見せた。yが手のようにつながることで図書室の、あったかく人の集う場所というイメージをこめた。



鈴木 史人
Fumihito Suzuki
デザイン学部1年

札幌市立大学の図書館報のイメージとして思い浮かんだのが“雪,知識,本棚”それらの言葉から“知識が雪のように降り積もっていく”というのを考えました。

ネーミングもそのイメージから“積雪”“seki-SETU”というのにしました。ロゴは左→真ん中→右の順にだんだん雪が積もっていき図書館の本棚になっていくというイメージです。



阿部 由理
Yuri Abe
デザイン学部コンテンツデザインコース2年

蔵書票を意味する「EXLIBRIS エクス・リプリス」という言葉から名付けました。本やペンなど図書に関わりのあるイラストも加えて、図書館報のロゴにふさわしいようにと配慮しました。一番上のグラデーションがかけられているものは、本のページとページの間をイメージしたものです。



札幌市立大学の通称である「イチリツ」をネーミングに採用しました。スの字から流れているインクが図書ニュースレターを彩るイメージを描きました。



菊地 清功
Kiyotaka Kikuchi
デザイン学部1年

ネーミングはLibralyから頭五文字をとって「Libra:ライブラ」としました。ロゴは天秤座のLibraから天秤座のモチーフとネーミングを組み合わせました。制作する際にシンプルで長く使えるものを心がけました。



富田 香代子
Kayoko Tomita
デザイン学部メディアデザインコース2年

図書館のロゴということで、本を読んでいる人をそのままロゴマークにしました。彼が真剣に本を読んでいるのか、ニヤニヤしながら本を読んでいるのかは見た人の想像次第です。アクセントに赤のアスタリスクをつけました。ネーミングはBooketterでBook+Letterです。本からの手紙というようなかんじで名付けました。

思わぬ本と出会う喜び。

蔵書検索（OPAC）で目的の本を探す。

資料を調査、研究する。

電子ジャーナルを読む。

レポート、論文を書く。

本を読む。

映像を楽しむ。

雑誌、新聞でくつろぐ。



〔大学本部・デザイン学部〕

芸術の森キャンパス・ライブラリー

道内でも有数のデザイン・アートの専門図書、雑誌を所蔵する図書館です。一般図書や視聴覚資料も豊富です。

〒005-0864
札幌市南区芸術の森1丁目
真駒内駅から2番のりば 中央バスに乗車（約12分）
「市立高専・大学前」下車 徒歩3分
敷地面積／1,500㎡
所蔵図書／約6万冊
所蔵雑誌／285タイトル

〔看護学部〕

桑園キャンパス・ライブラリー

看護学の幅広い専門図書、雑誌、視聴覚資料を所蔵する図書館を目指しています。

〒060-0011
札幌市中央区北11条西13丁目
JR桑園駅下車。徒歩2分
敷地面積／500㎡
所蔵冊数／約2万2千冊
所蔵雑誌／232タイトル



【開放時間】 通常：午前9時～午後9時／土曜日：午前10時～午後4時 長期休業期間中：午前9時～午後5時（芸術の森）／午前9時～午後6時（桑園）
※日曜・祝日・年末年始は休館。休館日はホームページの開館カレンダーをご覧ください。

本学関係者の利用について

図書の閲覧・貸出ができます。芸術の森と桑園の図書の相互の取り寄せができます。返却はどちらでも構いません。マイページ登録で貸出状況（返却期限や冊数）の確認や、予約や購入リクエストができます。電子ジャーナルは、図書館内のPCからアクセスすることができます。詳細はホームページやカウンターでお尋ねください。

一般開放について <http://www.lib.scu.ac.jp/>

市民の皆様の生涯学習や研究活動の利用に図書館開放をしております。

- ☐ 年齢18歳以上。
- ☐ 札幌市内に在住または在勤される方。（小さなお子様連れの来館はご遠慮ください）

図書の閲覧、複写及びインターネット、電子ジャーナル利用ができます。館外貸出の利用はできません。桑園キャンパスのみ視聴覚資料の利用可能です。芸術の森キャンパスはAVブースの整備後に利用が可能になります。詳細はホームページでご確認ください。

司書の仕事

司書は図書情報学を学んだ専門職です。図書を整理、分類、貸出をするだけでなく、利用者への図書の相談や論文検索のための電子ジャーナルのナビゲーションをしてくれます。本が好きな人が集まっています。検索では分からない情報を得ることができますので、気軽にカウンターへ相談してください。



芸術の森キャンパス・ライブラリー



桑園キャンパス・ライブラリー

芸術の森メディアシアター

☐ シネマテーク（著作権の関係から一般公開は行っておりません）

学生や教職員を対象に、タルコフスキーやゴダール、アラン・レネなどの歴史的評価の高い映画を定期的に上映しています。本学のマロアン・エルサニ准教授とニナ・フィッシャー准教授のユニット映像作品、歌手の中島美嘉がスターになるまでのドキュメンタリー「TOKYO STAR」も上映しました。今後も創造性豊かな映像を上映して、学生の育成に努めてまいります。また、高大連携の一環で高校生対象に模擬授業やシネマテークも開催しました。

札幌市立大学 附属図書館

SAPPORO CITY UNIVERSITY



<http://www.lib.scu.ac.jp/>

編集後記 ▶ デザイン学部 上遠野 敏

元日本建築学会会長、札幌市立高専初代校長で芸術の森キャンパスの基本設計(C棟を除く)を行った清家清先生は博覧強記で、図書の語源である河図洛書(かとうらくしよ)を話されたことがある。河図洛書は中国の占い「易」の根本で図形をもとにしている。それによって禹王(うおう)は黄河の洪水を治めたそうです。「デザイナー或いは建築家が形象の発想—デザインコンセプトの段階で難渋するのは当然です。こうした時に、先人の残してくれた古典、特に先人の残してくれた図形／かたちは新しい形象を創り出す源泉です」と図書館の中で図の重要性を説いておられました。看護においても図の重要さは変わらないでしょう。芸術の森キャンパスに私のお気に入りの場所がある。学生会室の屋上である。クローバーホール(学生会館)開設後12年が過ぎて、屋上に敷いた碎石は美しい緑の苔に覆われた。苔寺や茶室を思わせる凜とした趣である。スカイウェイを通るたびに惚れ惚れとし清家清先生の偉大さを想う。

参考資料『日本建築古典叢書』刊行にあたり清家清の推薦文

図書館ニュースレター「のほほん」創刊号の発刊にあたり、原稿を書いて頂いた皆様やロゴを作って頂いた学生に敬意を表します。これからも学生や利用者の皆様楽しんで頂けるような読み物を掲載してまいりますので、ご愛読をよろしくお願いいたします。

札幌市立大学附属図書館ニュースレター のほほん創刊号

編集 図書委員会

発行日 2008年1月21日

発行 札幌市立大学附属図書館
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
事務局経営企画課情報図書担当係
TEL.011-592-2346

制作・印刷 株式会社 プリプレス・センター